兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　岸　谷　義　雄
題字　井　戸　知　事

多紀連山から望む雲海　写真提供：山田辰男氏

もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

平成二七年新春メッセージ
～安全安心と元気の創造～

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

今年は、阪神・淡路大震災から二〇年の節目を迎えます。未曾有の災害から得た経験と教訓を発信し続けるとともに、復興を成し遂げてきた兵庫の力を、未来に向かって、世界に向かって、一層力強く発揮する好機の年としようではありませんか。

昨年末、国政の新たな体制が固まりました。人口減少の克服や東京一極集中の是正など地方創生の動きの本格化に向けて、今こそ、地方が主導する国づくりを進めるべき時です。兵庫の多様性を生かし、個性ある地域の発展に全力を尽くしていきましょう。

第一は、安全安心の確保。

地震、津波対策のほか、昨年八月の豪雨災害を踏まえた風水害への備えを強化します。また、二〇二五年問題を見据えた福祉・介護・医療の充実や、子どもや高齢者などの課題に対応して、地域社会での暮らしの安心を確保します。

第二は、活力ある地域経済。

グローバル市場でも存在感を示すオンリーワン企業の育成や、産業としての農業の振興、ブランド化を進めます。子育て環境の充実とあわせ、女性、若者、高齢者、障害者など多様な人材の社会参加を促し、人口減少社会の活性化をめざします。

第三は、地域の元気の創造。

山陰海岸ジオパークなど多彩な地域資源を活用した広域観光圏の形成や、交通ネットワーク等社会基盤の整備、淡路花博二〇一五花みどりフェアの開催などにより、地域活性化と内外との交流拡大を図ります。

ふるさとへの愛着と二〇年間の復興の歩みを基礎に、柔軟な発想と地域主導の行動で直面する課題に挑み、兵庫の新時代を切り拓いていきましょう。

新年のあいさつ

公益財団法人　兵庫県消防協会
会長　岸谷　義雄

新年あけましておめでとうございます。

平成二七年の輝かしい新春を迎え、消防団員、消防職員並びにご家族の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様方には、消防防災の最前線に立ち、あらゆる災害から地域の安心・安全を守るため、昼夜献身的にご尽力されていることに対し、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。また、平素は本協会の運営や活動に対し、格別のご理解とご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

さて、近年、大規模災害が全国各地で頻発しております。県内におきましても、昨年は、相生・赤穂等での林野火災をはじめ、丹波での豪雨災害など大規模な災害が大きな爪痕を残し、改めて自然の驚異と災害対応力の重要性を再認識したところです。また、近い将来、南海トラフ巨大地震の発生が確実視される中、地域防災力の中核を担う我々消防団の役割は益々重要性を増しており、県民の消防団に寄せられる期待も大きなものとなっております。

皆様方には、消防人として高い誇りと、地域の安全・安心を守るという消防の崇高な使命を達成するため、今後とも心身の鍛錬、技術の錬成に努めていただきますようお願い申し上げます。

本協会といたしましても、消防の持つ使命の重要性を深く認識し、地域の安全・安心の確保のため各種事業を積極的に推進しているところでございます。今後とも消防団の活性化を図り、社会環境の変化に即した消防団の充実強化に傾注してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましては、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今年が災害のない平穏な一年であることを祈願し、県下の消防団員、消防職員の皆様のご活躍、ご健勝をお祈り申し上げまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

年頭の辞

消防庁長官
坂本　森男

平成二七年の新春を迎えるに当たり、常日頃から地域の安心・安全を守るため、昼夜を分かたず消防防災活動にご尽力いただいております全国の消防関係者の皆様に、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年は、大規模な自然災害により、大きな被害が生じました。

夏には、台風や前線の影響により全国各地で大雨被害が発生し、中でも八月に広島市で発生した土砂災害では七四名の方が犠牲となり、救助活動中の消防職員が再度発生した土石流に巻き込まれて殉職するという痛ましい出来事もございました。

また、六〇名を超える死者・行方不明者が発生した九月の御嶽山の噴火災害においては、高地で酸素が薄く、火山性ガスが発生し、さらに足下に大量の火山灰が降り積もっているという過酷な環境の下で、多くの消防職員が懸命の捜索活動に当たりました。

さらに、幸い死者が発生することはありませんでしたが、一一月には、多くの家屋倒壊を伴う地震が長野県北部を震源として発生したところであり、今後、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模地震の発生も危惧されています。

ひとたび災害が発生すれば、先陣を切って災害現場に駆けつけ、果敢に活動する消防に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。このような国民の信頼と期待に応えられるよう、消防庁においても、緊急消防援助隊や常備消防力の充実強化、消防団を中核とした地域の防災力の充実強化、二〇二〇年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた大都市等の安全・安心対策、火災予防対策、被災地における消防防災体制の充実強化などを柱とした施策に取り組んでいるところです。

また、高齢者施設や有床診療所における火災が相次いだことを受け、消防法施行令の一部を改正し、スプリンクラー設備の設置基準の見直しを行いました。改正後の基準は、本年四月以降、順次施行されるため、施行に向けた取組を進める必要があります。

我が国の消防は、先人のたゆまぬ努力の積み重ねにより、着実に進展し、国民の安心・安全の確保に大きな役割を果たしてきました。皆様方におかれましても、我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展と、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりのために、より一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

皆様のますますのご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新春ご挨拶

公益財団法人　日本消防協会
会長　秋本　敏文

輝かしい新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申しあげますとともに、今年が皆さまにとってよい年であり、各地域が無事平穏でありますよう心からお祈り申しあげます。また、地域の安全確保にご尽力を頂いている消防団員、職員の皆さまに深く敬意を表します。

東日本大震災後の我が国の消防防災体制のあり方について、当協会として新法制定を提言しましたが、一昨年末、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」という新たな法律が成立しました。これは、消防団の重要性を明らかにするとともに、地域にあっては消防団が中心になりながら、常備消防との連携のもと、地域の皆さんの総力を結集して地域防災力の充実強化を進めるという、これまでにない画期的な法律であります。そこで、広く国民の皆さんに、地域防災力の強化が大事だということをご理解いただくため、当協会主催により、昨年八月二九日、東京都有楽町の東京国際フォーラムにおいて、「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」という初めての国民的大会を開催しました。

この大会には、消防関係者だけでなく、経済、教育、医療、福祉など各界の方々に広くご参加頂き、さらに安倍内閣総理大臣をはじめとするご来賓の方々にもご出席頂き、全国各地の活動事例発表など充実した内容により盛大に執り行うことができました。

一方、東日本大震災後も、各地でこれまでの経験にない局地的な集中豪雨、竜巻、大雪などの災害があり、さらに近い将来の大規模な地震の発生も懸念されています。どのような災害があっても、東日本大震災の時のような体験を繰り返すことのないよう、新法の趣旨に沿ってより強固な消防防災体制づくりを進めなければなりません。

平成二七年度は、新法施行後の実質初年度でもあります。地域防災の中核である消防団については、団員の確保、装備の改善等による充実強化を図り、そうして地域の総力を結集する防災体制強化のスタートを切ることができるよう、消防関係者が連携し、国の財政措置、各市町村の予算措置など必要な施策の実現に総力を挙げなければなりません。

また、少年消防クラブや女性防火クラブ、地域の自主防災組織の活動支援なども地域の防災基盤を強化する重要な課題として、引き続き努力します。

さまざまなご苦心ご苦労がおありと思いますが、消防団員、職員の皆さまの益々のご健勝ご多幸をお祈り申しあげて新年のご挨拶といたします。

～　謹んで新春のご挨拶を申し上げます。　～

平成二七年元旦

公益財団法人
兵庫県消防協会

総裁　井戸　敏三
副総裁　吉本　知之
　　金澤　和夫
名誉会長　杉本　明文
　　関山　功
会長　岸谷　義雄
副会長　北井　道男
　　岸本　重男
　　一井　三好
　　富田　重二
　　中西　君一
　　田中　旭
　　淨慶　康治
　　北山　正
　　大谷　毅
監事　島田　幸司
　　植山　保信
　　松田　芳夫

平成二六年 秋の叙勲（消防関係）伝達式が挙行

平成二六年秋の叙勲が一一月三日に発令されました。

叙勲の受章者（消防関係）は、全国で六〇九名、うち兵庫県では、元消防団員・吏員二二名が叙勲の栄に浴されました。

受章者は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発展に寄与した消防関係の方々です。

叙勲の伝達式は、平成二六年一一月七日（金）午前一一時一五分よりニッショーホールで盛大に挙行され、高市総務大臣から各代表者に叙勲が伝達されました。

《全国消防関係受章者数》

瑞宝小綬章	三七名
旭日双光章	二名
瑞宝双光章	六三名
瑞宝単光章	五〇七名
計	六〇九名

受賞者の皆様

総務大臣から伝達

叙勲伝達式

〈兵庫県下受章者（消防功労）〉

◎瑞宝小綬章

元神戸市
消防正監　植松　嵩佳

元加古川市
消防正監　田中　繁彦

元西宮市
消防正監　田中　民男

元神戸市
消防正監　松本　正義

◎瑞宝双光章

元香美町消防団
団　長　青山　喜一

◎瑞宝単光章

元たつの市消防団
副団長　出田　富一

元新温泉町消防団
副団長　井上　知明

元姫路市姫路東消防団
分団長　井上　正一

元明石市消防団
団　長　碓氷　毅

元赤穂市消防団
分団長　柏原　正芳

元西宮市消防団
分団長　岸　秋廣

元姫路市姫路西消防団
副団長　小林　良平

元朝来市消防団
副団長　嵯峨山秀喜

元尼崎市消防団
分団長　芝軒　義一

元加古川市消防団
副団長　中崎　弘一

元尼崎市消防団
副団長　永田　勝洋

元西宮市消防団
分団長　野田　延英

元姫路市網干消防団
団　長　春木　壽朗

元神戸市西消防団
副団長　丸山　修次

元神戸市北消防団
副団長　山谷　副就

元豊岡市豊岡消防団
団　長　吉岡忠次朗

元加古川市消防団
分団長　鷲野　繁

第二三回危険業務従事者叙勲が
平成二六年一一月三日に発令

受賞者の皆様

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防御するため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。

受章者は、全国で瑞宝双光章三三二名、瑞宝単光章二九一名、計六二三名、うち兵庫県関係では、二一名の消防職員が受章されました。

兵庫県下受章者（消防関係）

◎瑞宝双光章

元西脇多可行政事務組合
消防司令長　足立　順男

元神戸市
消防監　井上　孟彦

元姫路市
消防監　井上　好幸

元尼崎市
消防監　岩下　英一

元加古川市
消防監　神吉　哲男

元加西市
消防司令長　竹内　正己

元伊丹市
消防監　武田　直信

元川西市
消防司令長　中野　久雄

元宍粟市
消防司令長　野崎　信

元宝塚市
消防司令長　林　五郎

元明石市
消防司令長　藤森　敏文

元豊岡市
消防監　森田　進

元淡路広域消防事務組合
消防司令長　山下　芳繁

◎瑞宝単光章

元たつの市
消防司令　岡西　政春

元姫路市
消防司令長　尾崎　浩

元丹波市
消防司令長　久下　悟

元芦屋市
消防司令　重野　信弘

元神戸市
消防司令長　空　利彦

元三木市
消防司令　檜皮　正

元尼崎市
消防司令長　古田　惠一

元西宮市
消防司令長　和田　統

総務大臣式辞

式典の様子

「平成二六年版消防白書」の公表

消防庁

この度、消防庁において、消防白書が公表されました。

消防白書は、国民の生命、身体及び財産を災害等から守る消防防災活動について紹介しているもので、毎年刊行されています。

平成二六年版消防白書では、消防庁が力を入れて取り組んでいる施策として、東日本大震災の教訓などを踏まえた①緊急消防援助隊の機能強化②消防団等地域防災力の充実強化③最近の大規模自然災害・火災爆発事故への対応及びこれを踏まえた消防防災体制の整備について特集されております。

また、本編では火災や風水害をはじめとする各種災害の統計数値を含む現状と課題、消防防災の組織や活動等について記載されております。

消防白書は、消防庁のホームページに掲載されているほか、政府刊行物サービスセンターや主要書店などで販売されていますので、是非ご覧ください。

消防庁ホームページ
（消防白書掲載ページ）
http://www.fdma.go.jp/html/hakusho/h26/h26/index.html

第20回全国女性消防団員活性化ちば大会開催

（公財）兵庫県消防協会事務局

正面入口看板

第二〇回全国女性消防団員活性化ちば大会が、平成二六年一一月一四日（金）に千葉県浦安市の舞浜アンフィシアターにて開催され、大会に引き続き舞浜ホテルクラブリゾートでは、情報交流会も開催されました。

大会は、全国から過去最高となる約四千人の消防職・団員が参加し、兵庫県からも岸谷会長以下多くの方が参加しました。

まず、松戸市消防音楽隊によるウェルカムコンサートで幕を開けました。演奏された曲の中には、神戸市消防音楽隊が起源となっている「ハロー・ファイアーマン」も含まれており、松戸市消防音楽隊の呼びかけに、兵庫県からの参加者も手を振って答えました。

その後、大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、開催地市長挨拶、来賓祝辞、日本消防協会役員紹介と進行しました。当県の岸谷会長は、日本消防協会副会長でもあるため、舞台上にて開会式へ参加されました。

開会式の様子

開会式の後は、開催地が千葉県浦安市ということから、東京ディズニーリゾートの、ミッキーマウスとミニーマウスも応援に駆けつけ、会場が一気に盛り上がりました。

会場が一気にヒートアップしたところで、四団体が活動事例発表を行い、午後からは四団体が火災予防啓発劇を行いました。どの団体も、活発な活動内容や、効果的な予防広報活動を発表し、参加者にとっては今後の活動にプラスになるような、良い刺激を与えてもらうことができました。

その後、市原悦子氏による『朗読とお話しの世界』という演題で記念講演が行われ、会場全体が市原氏の朗読に引き込まれました。

日消役員紹介での岸谷会長

秋本会長挨拶

情報交流会鏡開き（右端：神戸市灘消防団木村眞三さん）

最後に、大会宣言と次回開催地の佐賀県への大会旗の引継が行われ、閉会宣言の後に大会は幕を閉じました。

閉会後、東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートで開催された情報交流会では、当県神戸市灘消防団の木村眞三さんが鏡開きに参加して下さり、会場を大いに盛り上げ、盛会のうちに終了しました。

兵庫県からの大会への参加団体は次のとおりです。

神戸市灘消防団
神戸市北消防団有馬支団
神戸市北消防団淡河支団
神戸市長田消防団
神戸市垂水消防団
明石市消防団
洲本市消防団
豊岡市出石消防団
三田市消防団
丹波市消防団

消防団員入団促進キャンペーン実施中！

毎年三月末から四月にかけて、消防団員の退団が多くなる傾向にあることから、消防庁では、地域防災力の向上を図るために、平成二七年一月から三月までの間を「消防団員入団促進キャンペーン」期間と位置づけ、消防団員募集について広報の全国的な展開を図っております。

本キャンペーン期間は、消防団員確保の重点時期と位置づけて、広報紙、ケーブルテレビ及びホームページ等のあらゆる広報媒体を通じて広報をしていただくとともに、消防庁で作成されたポスター及びリーフレット等を活用し消防団員の確保の更なる推進にご協力いただきますようお願いします。

消防団ピックアップ

Pick Up!

『有事に強い消防団を目指す』

神河町消防団

神河町消防団は、二町合併（旧神崎町・旧大河内町）により、平成一八年四月一日に新たなスタートをきりました。

現在、本部と三二分団で構成され、団員数六八九名（平成二六年四月一日現在）、機動力は消防ポンプ自動車一九台、小型動力ポンプ積載車一三台を配備しています。

常備消防の出張所から遠い当町において、「消防団員が神河町民の生命・財産を守る」との郷土愛護の精神で、地域に密着した活動に取り組んでいます。

有事出動を想定し、日頃の訓練から団員の安全が第一と、安全確認・安全確保の大切さを求めています。また、操法訓練を通して正確な機械器具の取り扱いを学ぶと共に、指揮命令の重要性、規律ある団行動を身につけることが、有事に強い消防団に繋がるものと考えています。

今年度は、近年の異常気象で多種多様化する自然災害に対応すべく、水防・救助資機材活用訓練を平成二六年九月二八日（日）に実施しました。当日は、一三四名の団員参加のもと、姫路市消防局中播消防署員にご指導いただきました。

初めに「消防団員の身分と活動について」と題し講義を受けました。本年に広島県で発生した大規模土砂災害を引き合いに、気象情報の入手ツールや、水防活動時に消防団員が災害に巻き込まれない為の留意点等を詳しくご講義いただき、団員もメモをとるなど熱心に聞き入っていました。

引き続き、屋外に移動し実技訓練に移りました。まずは、土嚢の重さや縛り方など基本的な事項の説明を受けました。その後、様々な水防工法がありますが、最も使用頻度が高い積み土嚢工法の積み方、固め方、杭の打ち方等の指導を受け、訓練に取り組みました。ベテランの団員は再確認を、経験の浅い団員は基礎をしっかりと身に着けることができたと思います。

続いて四つの班に別れ、総務省から貸与いただいたエンジンカッター、チェンソーの操作取り扱い、大型エアテント設営に取り組みました。初めて使用する団員も多く、特にエンジンカッターに悪戦苦闘する姿も見受けられましたが、コツを掴みスムーズに用意した廃材を切断していくなど、訓練の効果が見て取れました。

近年の消防団活動は、地震や風水害といった大規模災害時の救助活動や各種事故への対応を求められています。有事に備え、日頃から訓練を積み重ねておかないといくら高性能な資機材があっても宝の持ち腐れになってしまいます。この様な訓練の積み重ね、経験値の向上こそが、有事に強い消防団への近道であると確認できた一日となりました。

『盛況！加東市消防団活動展』

加東市消防団

加東市消防団は、平成一八年に旧加東郡社町、滝野町、東条町の消防団が合併して発足しました。

発足以来、当消防団でも少子高齢化により年々団員数が減っています。

なんとか新入団員を増やせないか検討した結果、毎年開催され多くの市民が集まる『加東市秋のフェスティバル』で広報活動をすることになりました。

我が消防団が対面で直接市民に訴えかける最初の試みです。

コンセプトは消防団の活動を市民に具体的に知ってもらうこと。

県消防協会から『阪神淡路二〇年一・一七は忘れない』の活動パネルを貸出していただき、内容も重厚なものになりました。

それでは展示の内容を具体的にお話します。

テント一張の中をボードで仕切り、活動パネルを並べるとともに、災害現場で使用するホースや筒先、スタンドパイプ等を展示し、名前や使用目的を解りやすく書いたカードを貼付しました。

消防関係者なら誰でも知っている資機材でも、一般の方は初めて見る物が多いはずです。

パネルもただ並べるだけでは読んでもらえないので、全二〇枚のパネルに番号を付けて、この中に『加東市』という文字のあるパネルを探すという簡単なクイズを設けて、回答者に記念品をわたしました。

また、映像コーナーでは、当消防団の一年間の活動をまとめたビデオ作品を見てもらいました。

集客の目玉は体験放水で、展示テントの横で希望者に、実際に火災で使用する可搬式ポンプやホースで会場の隣にある池に放水していただきました。

ポンプが作動する音や豪快に飛び出す大量の水を、たくさんの会場の人々が見てくださり、体験希望者は順番待ちの列ができました。

展示テントの全景

パネルや資機材の展示

順番待ちの体験放水

展示を見ていただいた方や放水を体験していただいた方には新入団員勧誘のチラシとクリアファイル、記念品をわたしました。

来場者の感想は、「こんな道具で火事を消していたのか」「水が出ている筒先はとても重い」「いろんな活動をしていただきお疲れ様です」等いろいろな声が聞かれました。

今回の展示が、どのように新入団員勧誘に結びつくのかは、これから効果が表れると思いますが、これまで馴染みの少なかった消防団活動が、展示を見ていただいた方々には身近に感じてもらえたのは確かです。

今後も、いろいろな方法で市民の方々に活動を理解してもらい、一人でも多くの若者が、私たちの仲間になってもらえるように、努力して行きます。

わが町の団長さん

「消防団が地域の防災リーダーへ」

小野市消防団
飛田　佳孝

小野市は、北播磨地域の南方に位置し、昭和二九年一二月に小野、河合、来住、市場、大部、下東条の六ヶ町村が合併して市制を施行、昭和三一年には当時加東郡社町の久保木、古川を編入し、現在の小野市が誕生しました。古くから、そろばんと家庭用刃物の生産地として順調な発展を遂げてきた本市は、主要幹線道路の整備や災害拠点である「小野市防災センター」、神戸大学と連携による全国的に例を見ない新たな病院経営への取り組みの「北播磨総合医療センター」、「ホテルルートイン小野」のオープンにより じっくりと本市を行政視察していただける環境も整い、ここ数年で北播磨の中心都市として一層の飛躍を遂げてきました。また、今年で市制六〇周年を迎えるにあたり、小野ハーフマラソンや記念式典等の様々な行事が行われ、あらゆる情報を全国へ発信しています。

飛田団長率いる小野市消防団は、六分団、団員数六九六名で構成され、ポンプ自動車五台、小型動力ポンプ積載車四九台で、「自らの郷土は自らで守る」の郷土愛護の精神に基づき、日夜、防火・防災に努めています。

平成一三年には、北播磨地域で初めての女性分団（愛称：サンフラワーズ一一九）を結成、消防団の活性化を促し、地域住民へも、女性らしい優しさと細やかな配慮を活かし、各地域で活躍しています。

飛田団長は、昭和五五年に入団以来、分団長・副団長を歴任され、平成二六年四月に第八代目の団長に就任されました。

団長は、消防団の団結と誇りを重要視されており、特に規律を重んじ、時には厳しい言葉を掛けられますが、反面、幹部・団員への人一倍の細やかな気配りで厚い信頼を寄せられております。

就任時から、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布されたこと受けて、消防団が地域防災のリーダーシップをとるよう団員への指導、基本訓練はもとより、時代に即した訓練を実施され、何事にも消防団が一致団結して災害に取組む体制や、新たに災害時の関係部署との連携連絡体制を構築され、防災対応力を強化されています。

また、団長は地域に密着し、住民の皆様と一体感を持ち、消防団と地域住民の皆さんとの防災訓練の際には、自ら先頭に立って活動されています。

これからも、地域防災のリーダーとして、小野市民の安心と安全を守り、より一層、市民から信頼される消防団へと導いてくださることを期待しております。

「二一八九人を預かる責任と統率力」

南あわじ市消防団
大谷　毅

南あわじ市は兵庫県最南端の市であり、平成一七年一月一一日に三原郡緑町、西淡町、三原町、南淡町四町が合併して誕生しました。

現在の人口は約五万人で面積、人口とも淡路島最大の市となりました。

南あわじ市消防団はこの南あわじ市誕生と同時に発足し、現在は四方面隊、五九分団、消防ポンプ自動車二四台、小型動力付積載車八四台、団員数二，一九〇人体制で日夜消防活動に精励しています。

大谷団長は昭和六二年に旧緑町消防団に入団され、平成一〇年に分団長。その後、平成二二年には緑方面隊長を務め、平成二六年四月一日より第六代南あわじ市消防団長に就任されました。

平成二七年一月に南あわじ市は合併後一〇年を迎え、平成二七年四月には南あわじ市新庁舎が完成し、各方面隊の組織・体勢づくりに着手しており、持ち前の行動力を発揮されています。

火災や風水害をはじめ今後懸念されている南海地震等災害時に備え、消防団員ひとりひとりが、安全且つ的確に対応できるよう消防団マニュアルづくりにも取り組んでおられます。

また、消防団活動では災害現場指揮だけに限らず日頃からの消防団員としての自覚・規律・統制を重んじ、時には厳しい言葉もかけられますが、温厚で人の和を大事にしておられる団長は、団員への気配りも細やかで幹部・若手を問わず厚い信望を集めております。

自ら営む瓦工事店という本来の仕事の傍ら、消防団活動にも熱心に取り組まれ日々多忙な団長さんですが、市民の生命・財産を守るため、地域住民から信頼される消防団を目指し、なお一層のご活躍が期待されています。

がんばってます、女性消防団員

『地域に密着した活動を！』

姫路市姫路西消防団　三木　歩

平成二四年にスタートした姫路市の女性消防団も、早くも今年で三年目となりました。本当に様々なことを経験させてもらった充実した日々でした。前も後ろもわからなかった当初に比べ、今年は応急手当指導員として市民の方々へ講習するための勉強に取り掛かり、また、ラジオや広報誌での広報の機会も増えるなど、一歩一歩活動の幅が広がってきました。

一四人の女性消防団員は驚くほどみんな個性豊かです。行事の後には一緒にご飯を食べに行ったり、団員の働くお店に集まったりと、そんな交流も楽しみのひとつです。一〇歳以上年上や年下の人とお友達になれたことがとてもうれしく、それも女性消防団に入団したおかげだと喜んでいます。これからの目標は、県内の他の女性消防団のように、個性を活かした特色ある広報活動を、みんなで力を合わせて実施していくことです。

また、活動を通して地域の方に親しんでいただけるようになったこともうれしく思っています。今住んでいるところは私も主人も出身地ではなく、子供もいないので、付近の方と知り合うきっかけがなかったのですが、夫婦で消防団員としての活動に参加するようになってから一気に地元のお知り合いが増え、いつでもお互いが助け合えるような関係になりました。見知った方の多い町に住めるのは、なんて心安いことでしょうか。防災の面でも大変心強く思っています。その大切さを、特に若い方々にもっと知ってもらえるよう、これから広報も含めた消防団活動を頑張っていきます。

われら若手消防団員

～消防団に入団して～

多可町消防団
第11分団　仕出原部
植山　公博

私が住む多可町は、田舎町で過疎化が進んでおり、そのため私の所属する仕出原部でも団員数は一五名（定数一九名）と少なく、若手の入団者が少ないため高齢化が進んでいます。地元に残っている者だけでもできるだけ入団をして欲しいと誰もが願っています。

私が消防団に入団を決めた理由は、「○○もおるし、○○も入ってるで！」と従兄弟から消防団の話を聞いていたのと団員の中には小学校の頃から知っている面々がいることがわかり暖かい気持ちになったことを覚えています。また、私が社会福祉の仕事に就いているため、地域と密接に関わっていく大事さを知っていたことも消防団に入団する理由になりました。

消防団活動としては、月に一度の消火栓や消防車両の点検、他にも福祉施設との合同訓練、年末警戒等さまざまな活動があるため、私生活がより充実したものとなっています。

その中でも、入団して一番驚いたのは消防操法大会でした。先輩方の機敏な動き、繊細なところにとても驚かされたと同時に憧れを抱きました。入団して間もない私は、先輩方のサポート役に徹していますが、次の大会では選手として出場し上位を目指したいです。

まだ災害現場での活動はありませんが、いざという時のために常日頃から訓練等を怠らず、「安心・安全なまちづくり」を目指し、地域の方々からより信頼される消防団員になるよう尽力して参りたいと思います。

地域のお知らせ

篠山市

寒い冬は丹波篠山で、ほっこりと！

篠山市は、兵庫県中東部に位置し、自然環境の豊かな地域であり古来京都への交通の要として栄えてきた歴史があり、町並みや祭りなどに京文化の影響を色濃く残しています。また、秋から冬にかけては盆地特有の濃い霧が発生する日が多く、低い山からでも眺められる雲海は「丹波霧」とも呼ばれ名物にもなっています。

ぼたん鍋でほっこりと！

♪雪がちらちら～丹波の宿に、猪（しし）が飛び込むぼたん鍋～

デカンショ節の一節です。寒さもいよいよ厳しくなってまいりました。丹波篠山の冬の風物詩「ぼたん鍋」も今が本番！猪肉もたっぷりと脂がのってまさに旬を迎えています。

丹波篠山冬の定番「ぼたん鍋」

「ぼたん鍋」のうんちく…

日本では古くから猟師達は猪や鹿などを食していましたが、仏教の影響で獣肉を食べることがはばかられたことから、馬肉を「さくら」鹿肉を「もみじ」猪肉を「ぼたん」と洒落て呼んでいたようです。

「ぼたん鍋」の名前の由来は、お皿に盛られた肉が牡丹の花に似ているからとも、前述のデカンショ節の「猪が飛び込むぼたん鍋」の一節から、逆に牡丹のように並べたとも言われています。

ぼたん鍋に欠かせない名産「山の芋」

篠山の「ぼたん鍋」はダントツ！

日本の猪肉の三大猟場といえば、天城（静岡）・郡上（岐阜）・丹波篠山（兵庫）と言われますが、その中でも丹波篠山の猪肉・ぼたん鍋は特に有名です。

山に木の実が豊富で猪には最適な環境である丹波篠山では、昔から猪がたくさん捕れ、食べられていました。その後、明治期に陸軍駐屯地の軍人たちが、山で猪を捕っては「しし鍋（後のぼたん鍋）にしてくれ」と料理屋へ持ち込んだり、家族などが慰問に来たりすると、もてなしとしてぼたん鍋を囲んだそうです。それで、「篠山にぼたん鍋あり」と有名になりました。

丹波篠山ではあちこちで猪がお出迎え

ぼたん鍋は市内の老舗料理旅館「近又」が発祥だといわれています。

「ぼたん鍋」は体にも優しい！

猪の脂は必要な時期にだけ身につく脂で燃えやすいといわれます。コレステロールの溜まらない価多不飽和脂肪酸といい、悪玉コレステロールをやっつけてくれる脂です。

また、鉄分もビタミンも豊富で、鍋にするとたくさんの野菜も一緒に採るわけですから、「ぼたん鍋」は本当に体にやさしい食べ物です。カロリーも豚肉より低いといわれ、ビタミンB群が豊富で、脂の質が良いとなれば、女性の美容にも良いかも。

昔は獣肉臭さを消すために濃いめの味噌で煮たり山椒を使ったりしていましたが、今は肉の処理もよく臭みはありません。おかげでいろいろなお出汁で提供する店も増えてきました。

消防団員の皆様には出初式、新年会と酒宴の席も多くなっているかと思います。ぜひこうした席に一度丹波篠山の「ぼたん鍋」をお選びください。後悔はさせません！

豊岡市出石町

地域から愛される消防団

江戸時代五万八千石の城下町として栄え、現在も数多くの史跡が残る町並みを舞台に「出石お城まつり」を毎年一月三日に開催しています。

まつりでは、小中学校生による音楽隊が町内をパレード、よさこい踊り・出石高校吹奏楽部・出石太鼓〝炎〟の演奏を出石支所前広場に設置した特設ステージで行いました。

そして、まつりの一番の見ものである、子ども大名行列と大人大名行列槍振りが町内を練り歩きました。この槍振りは文久三年（一八六三）出石藩主仙石久利公夫人が初入国の際、江戸から赤坂奴をお供に従えて、帰国されたのが始まりとされています。「インサヨーイ・イーヤットマカセ・ヨイヨイハーヨーイ」の独特の掛け声と絶妙な槍さばきは圧巻です。

子ども大名行列に参加

さて、豊岡市出石消防団ではお城まつり開催中、緊急時の救急車両の通行確保と歩行者の安全確保のため雑踏警備に就き、いつ発生するかもしれない災害に即対応できる態勢を整えています。あわせて、女性消防団員が中心となって、消防団活動の説明とノベルティを配布して団員確保に努めています。

当団の活動は、幹部団員訓練、新入団員及び幹部団員合同訓練、水防訓練、無線講習会、操法大会、普通救急救命講習会を実施しています。いざというときの迅速な行動で災害を最小限にくい止めるには、日々の訓練の積み重ねに尽きると思います。ひいては、団員自らの危険を回避することにもなりますので、これらの訓練は毎年実施し団員の士気を高めていきます。

また、本部分団と女性消防団員が中心となって毎週二回夜間の広報活動を、さらに月一回の昼間の広報活動を実施しています。さらに一〇個分団がそれぞれ定期的に機械器具の点検を兼ねて管轄内の広報活動を行っています。

女性団員も訓練に参加しています

さらに、地区の自主防災組織と連携した防災訓練（放水訓練）を実施し初期消火の重要性を促したり、各家庭を巡回して住宅用火災報知機の設置を呼びかけたり、消火器の詰め替え作業などを通して、地域の皆さんと一緒になった取り組みを行っています。

消防団員の確保と、会社勤務の消防団員が出動しやすいように、会社の理解を得るためにも地道な取り組みを行い、地域から愛される消防団でありたいと日々努力しています。

土のう積み訓練を行う団員

編集後記

新年あけましておめでとうございます。毎日厳しい寒さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では各団体の代表者の年頭のあいさつを掲載しております。また、各地区から多数のご寄稿をいただきありがとうございました。

本年も「兵庫消防」のご愛読をよろしくお願いします。